

プログラム 1 1

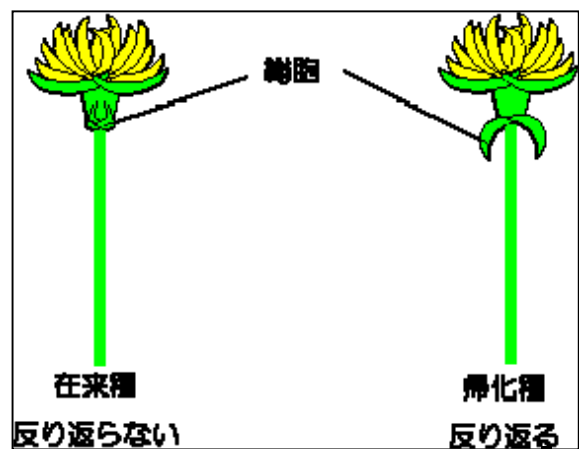
帰化植物マップを作ろう（環境保全活動）

目的

- ・ タンポポやセイタカアワダチソウを対象に、帰化植物の広がりを知ること。
- ・ 他の帰化植物や帰化動物など外来生物について、理解を深める。
- ・ 外来生物の影響や、その被害の予防のために自分たちで気をつけることについて考える。

概要

最近、外来生物の話題がマスコミで取り上げられることが多い。身近な外来生物であるタンポポやセイタカアワダチソウを調査し、タンポポの場合は在来種と帰化種（セイヨウタンポポ、アカシタンポポなどの種）、セイタカアワダチソウの場合は、セイタカアワダチソウとススキを比較して、分布図を作成する。また、この活動を通して、外来生物についての理解を深め、その影響などについて考える。



在来種と帰化種のタンポポの違い
国際環境専門学校HPより引用

<http://www.kankyo.ac.jp/>



ススキとセイタカアワダチソウ

いずれもウィキペディアHPより引用 <http://ja.wikipedia.org/wiki/>

対象

小学生から大人まで（人数は 10 名程度以上）

実施時期

春（タンポポの開花時期：4、5月頃）

秋（セイタカアワダチソウの開花時期：10、11月頃）

所要時間

3 時間程度

準備物

<現地調査～話し合い>

- ・ 植物を調べる地域の小さめの白地図（各グループで持ち歩くもの、グループ数分）
（時間があれば、参加者で作成してみるのもよい。この場合は、A3 程度の大きさの紙）
- ・ タンポポやセイタカアワダチソウ（説明用に事前に採取しておく）
- ・ 筆記用具（参加者数分）
- ・ バインダー（グループ数分）
- ・ 小さな丸いシールのシート（2色。タンポポの在来種、帰化種。セイタカアワダチソウ、ススキ）
- ・ みんなで植物の分布を確認するための、大きめの白地図（1枚）
（大判紙などに、あらかじめ作成しておく。地図はいずれも住宅地図などを参考にして作成するとよい）

<振り返り>

- ・ 振り返りシート（参加者数分）

内容

<現地調査>

- ・ 参加者を5名程度のグループに分ける。
（大人と子どもの混ざったグループ編成がよい。大人は、子どもの安全に留意する。）
- ・ 各グループの担当する地区を決める。
- ・ （時間があれば）各グループで調査地域の小さめの白地図作りをする。
- ・ 白地図に、目印となる建物や標識など、思い出して記入する。
- ・ 事前に採取した実物を見せて、タンポポやセイタカアワダチソウの特徴を説明し、見つけたときに貼るシールの色を指示する。
- ・ 帰ってくる時刻を確認して、グループ毎に植物調査に出かける。
（小さめの白地図、バインダー、筆記用具、シールを忘れずに）
- ・ 対象となる植物を見つけたら、白地図にシールを貼る。群落になっている場合は、その範囲を線で囲って示し、混ざっている場合は大まかな割合を考えてシールを貼る。
- ・ 歩いている途中で見つけた気になる建物（地域の特色が分かる建物等）なども記録しておく。
- ・ 各グループから、植物の分布状況を発表してもらおう。大きめの白地図に、分布の様子を転記し、みんなで見られるようにする。

<外来生物についての話し合い>

- ・ 最近の帰化植物や帰化動物など外来生物の話題について、知っていることを発表しあう。
- ・ さらに、外来生物について、インターネットなどで調べて理解を深める。

参考 徳島県立博物館：

<http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/ogawa/kikaku/default2.htm>

- ・ 外来生物の被害（在来生物の駆逐、毒などの危険、農林水産物等への被害など）を予防するためにはどうすればよいか考える。

<振り返り>

- ・ 今日の活動で気づいたことなどを、各自で振り返りシートに記入する。
- ・ 感想や今日からやろうと決めたことなどを、みんなで発表しあう。

安全対策や配慮事項

- ・ 子どもが危険な場所に立ち入らないようにするほか、自動車などに注意する。
- ・ 実施時間が長い場合は適宜休憩をとり、お茶やお菓子でコミュニケーションをとるのもよい。

展開や応用

- ・ 他の帰化植物（例えばヒメジョオン、オオブタクサ）を対象として、分布状況を調査してみてもよい。
- ・ セイタカアワダチソウの場合には、地域の高齢者などから聞き取り調査をして、昔の様子と比較してみるのもおもしろい。

プログラム提供団体

団体名・担当者名 とやま国際理解教育研究会 定村 誠

住所 富山市吉作117 大栄ハイツ3-206

電話番号 076-434-095

電子メール keh00171@nifty.com

ホームページ http://www.geocities.jp/tie_toyama/

団体の概要 とやま国際理解教育研究会（TIE）は、「地球規模で考え、地域で行動しよう（Think globally, act locally）」を实践する市民団体です。1996年発足以来、公正で持続可能な、地球社会・地域社会づくりをめざす仲間が集い、活動しています。ワークショップ（参加体験型学習）の進行役であるファシリテーターを育成し、地域の中で「参加型の学び」を発展させていくことを目的としています。